

セッションの進め方

§ 5

評価と認定

9/17 (日曜日) 15 時 30 分～16 時 30 分 (60 分間)

【担当 生田目】

◎目標

参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる

1. 活動プログラムの各段階における評価ができる。
2. 進級課目の認定ができる。

◎指導上のねらい

1. 次の活動に繋がる進歩・成長のため、活動を振り返ることの重要性を理解させる。
2. 評価と認定の方法と考え方を理解させる。

◎留意点

1. スカウトが推進するプログラムの各段階で評価が必要なことを理解させる。
2. 評価と認定の考え方を理解させる。
3. 評価の方法を理解させる。
4. 評価は次の活動プロジェクトのために必要なものであることを理解させる。
5. 進歩と評価の関係について理解させる。
6. 実習を通じてセッションの目標を達成させる。

◎講師の仕事 (依頼事項)

会議体が行う評価→指導者が行う評価→認定→面接→認証の流れでの、講師陣が実演。

◎準備品

ベンチャー隊長ハンドブック
 ベンチャースカウトハンドブック
 日本連盟規定集
 活動評価書 (例示用)
 プログラム例による評価の一例
 評価→認証までのシナリオ

◎セッションの展開（おおまかな流れを記述する）

1. 導入

(5分)

- ・このセッションでの目標について説明

2. 展開

(50分)

1. 評価とは何か、その必要性についての説明をする。

① 評価とは

- a.ある活動またはその活動の重要な部分が終了した時、その結果を当初設定した目標と照らし合わせて比較すること。
- b.設定された目標と得られた結果を比較し、目標と結果に開きがある理由を明らかにしたり、次の段階や活動が終わった時により良い結果が得られるよう必要な改善点を明示すること。

2. 評価ということについて説明する

- ・指導者としての評価
 - ・企画、計画～報告書作成に至る各段階において、スカウト、活動チームの取り組みを良く観察し、必要なアドバイスをする事。
 - 指導者とスカウトが話し、相互に同意していることが必要である。
- ・評価のポイントは VSLHB P51 参照
- ・各段階における指導者とスカウトの評価は、記録として残しておく。
- ・隊として隊会議、隊運営会議での評価
 - ・企画、計画～報告に至る各段階において、隊運営会議、隊会議での仲間の意見がそのまま評価となる。
- ・スカウト自身での評価
 - ・活動チームにおいて、自分の役割を果たすことができたか。
 - ・自分の考え、思いがチームに伝わったか、チーム員の考え、思いを理解して進めることができたか。
- ・隊以外での行う評価（保護者・地域・社会）
 - ・活動プログラムの結果をベンチャー隊以外に披露(発表)することにより得られる意見・感想。
 - ・その活動プログラム実施により社会、施しを受けた対象者から得られる意見・感想。

3. 各段階の評価

- ・プログラム、プロジェクトを進めて行く各段階での評価を説明する
 - ・評価とは目標への達成度と、スカウトの成長度合いを判定すること
 - ア) 評価の時期
 - イ) 誰が評価するのか・・・スカウト自身、隊指導者、団、保護者など
 - ウ) 評価の方法・・・設定した目的、目標に対して、参加者に対して、準備や活動内容に対して人的、物的、財的、安全などすべてのカテゴリーに対して行う
 - エ) 評価の段階・・・ニーズの発意、ニーズの整理、企画、計画、実施・展開、評価・反省の段階で行う
 - オ) アドバイス・・・指導者は各段階で、各カテゴリーに対して必要かつ適切なアドバイスを行う必要がある。このアドバイスはプロジェクトの成功のためだけでなく、スカウト個々の成長を展望したものとする。

4. 進級課目の認定

- ・ 課目の認定者は？

課目の認定は隊長の責任においておこなう。

- ・ 認定基準の調整

スカウトは各々得意、不得意の能力差があるため、課目の認定基準はスカウトに応じて調整する必要がある。

- ・ 進歩課目履修状況の把握

進歩課目の履修状況(努力している姿)を把握しておくことが必要である。

1) 実習の手順について

講師陣による実演であるが、目標をもって積み重ねてやり遂げたことの励ましの場と自己達成感を体感できる機会を体験する。

2) 実習の展開 (40分)

- ・ プログラム例を提示し評価の実例を示す
- ・ 会議体が行う評価→指導者が行う評価→認定→面接→認証の流れで、講師陣が実演を行う。

指導者としてスカウトへ達成したことへの励ましとねぎらいの言葉をかけ、真摯な大人としてのアドバイスをすることが次へのステップにつながることを理解させる。評価、認定はタイムリーにおこない、団、地区への手続きは遅滞なくおこなうことも指導者としての重要な役割である。

5. まとめ

(5分)

- 1) 評価は目標達成のための客観的な視点と、スカウト個々の性格や生活環境等を考慮してよく把握していることが重要なポイント
- 2) 活動の各段階で行った評価を記録しておくことの必要性とその評価を基にして次のステップに進むときに改善をスカウトが図れるように指導することが必要
- 3) 面接も社会性を養成、発達させる訓練の一つ
- 4) 承認と認定の違いと、使い分けを理解してスカウト指導をすること
承認：よしと決めて許すこと。よしとしてその有効性を認める事
認定：事実・資格の有無・事柄の当否などを調べ、それを判断して決定する事。